



## 発刊にあたって

世田谷区長 保坂 展人

東京都で57年ぶりに開催された「第32回オリンピック競技大会(2020/東京)」、「東京2020パラリンピック競技大会」は、競技数や参加アスリート数など史上最大規模の開催となりました。

今大会では、世田谷区ゆかりの選手をはじめとする多くの日本人選手が活躍しました。また、世田谷区では、馬事公苑での馬術競技開催や大蔵総合運動場でのアメリカ合衆国選手団トレーニングキャンプの実施等、多くのレガシーを残しました。

区は、東京2020大会開催に向けて、カウントダウンイベントなどの気運醸成事業や、馬術競技会場の馬事公苑周辺整備、ホストタウン・共生社会ホストタウンの相手国であるアメリカ合衆国との交流事業、区民が主役となりオール世田谷で取組むため「世田谷おもてなし・交流・参加実行委員会」を組織するなど、大会後を見据えて、区に多くのレガシーを創出するための取組みを進めてきました。

しかし、2020年初頭から全世界に感染拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、大会開催が1年延期となりました。大会期間中も感染症拡大防止の観点から、馬術競技を含めほぼすべての競技が原則無観客での開催となり、また、「世田谷おもてなし・交流・参加実行委員会」を中心に企画した、世田谷区を訪れる方々との交流事業、公道を走る聖火リレー、児童生徒の学校連携観戦等の多くの事業が中止・延期となりました。

そのような状況の中であっても、全力で競技に取組むアスリートの姿は、多くの方に勇気と感動を与えました。

また、アメリカ合衆国のホストタウン・共生社会ホストタウンとして、大蔵総合運動場でキャンプを実施し、延べ約3,600人の選手団を受け入れました。アメリカ合衆国代表選手の活躍をサポート出来たことを、大変嬉しく思います。

この厳しい状況の中、大会成功に向けご尽力いただいたボランティアスタッフをはじめ、全ての方々に深く感謝申し上げます。

このような東京2020大会に向けた準備や、コロナ禍で実施された大会期間中の取組みなどを多くの区民に紹介するとともに、後世に伝えるため、この記録誌を作成いたしました。

東京2020大会とその後を見据えて実施してきたハード・ソフト両面に渡るオール世田谷の取組みを多文化や多様性、障害への理解につなげるとともに、アメリカ合衆国ホストタウン・共生社会ホストタウンとしての取組みを継続し、東京2020大会のレガシーである「共生のまち世田谷」の実現を目指してまいります。

令和4年(2022年)2月

## 世田谷区における東京2020大会の取組みについて

2013年9月8日、国際オリンピック連盟総会で第32回オリンピック競技大会の開催都市が東京に決定され、1964年の東京オリンピックから約半世紀ぶりに東京でオリンピックが開催されることになりました。

2015年2月には、オリンピック馬術競技が1964年東京オリンピックの馬術競技会場となった馬事公苑で開催されることが決定し、同年11月には、パラリンピック馬術競技も同会場での開催が決定されました。

また、大蔵総合運動場がアメリカ合衆国選手団トレーニングキャンプ地として、2015年11月に決定しました。その後、世田谷区はアメリカ合衆国ホストタウン・共生社会ホストタウンとして内閣府に登録されました。

### 大会への気運醸成とその後のレガシー実現に向けたオール世田谷の取組み

馬術競技の開催やアメリカ合衆国選手団のキャンプ実施など、東京2020大会を契機として、世田谷区の将来に多くのレガシーを残すことを目的に、世田谷区は「2020年に向けた世田谷区の取組み～東京2020大会後を見据えて～」(2017年1月)を策定しました。

大会開催までの限られた時間の中で、気運醸成事業や、アメリカ合衆国との交流、ホストタウン・共生社会ホストタウン事業、また、区民を主体としたおもてなし・交流・参加プロジェクトなど、様々な取組みを実施してきました。

さらに、子どもたち一人ひとりの心と体に、人生の糧となるかけがえのないレガシーを育むため、区立幼稚園・小学校・中学校では、オリンピック・パラリンピック教育として、各教科等の学習内容とオリンピック・パラリンピックを関連付け、オリンピックとの交流やパラスポーツの体験をはじめ、多様性や多文化への理解等に向けた様々な取組みを展開してきました。

このように、区や区民、事業者等、多世代による「オール世田谷」の取組みを進め、東京2020大会への準備を進めてきました。

### 新型コロナウイルス感染症の影響

2020年に入り、新型コロナウイルス感染症が世界各国で大流行(パンデミック)し、各国では都市封鎖(ロックダウン)など感染拡大防止対策が取られました。

国内でも、感染症の拡大を防止するために国内外の人の移動を制限するなど、選手のコンディションや大会運営にも影響が及んだため、国際オリンピック委員会は、開催国である日本、東京都、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(以下、組織委員会)と協議し、東京2020大会の開催を2020年から2021年へと1年間延期することを決定しました。

世田谷区でも、感染症の影響により、多くの事業が延期や中止となりましたが、2021年に東京2020大会が安心・安全に開催できるよう、徹底した感染症対策の構築を進めました。

### コロナ禍の東京2020大会

新型コロナウイルス感染症が収束しない中、2021年7月23日に東京2020大会は開幕し、馬事公苑では馬術競技が無観客で開催されましたが、世界の人馬が集まり、熱戦が繰り広げられました。

また、感染拡大防止のため、区内を走行予定だったオリンピック聖火リレー及びパラリンピック聖火リレーは、公道走行が中止となり、聖火ランナーによる点火セレモニーに形を変えて無観客で開催されました。馬術競技、聖火リレーが無観客となった影響により、「オール世田谷」で進めてきた来訪者のおもてなしの取組みや、多文化、多世代の交流事業は行うことができませんでした。

このような状況下でしたが、大会では多くの日本人選手が活躍し、オリンピックでは過去最多、パラリンピックでは過去2番目のメダル獲得数でした。また、世田谷区にゆかりがある選手も多数出場し、活躍されました。区は感染症対策のためオンラインを活用して声援を送りました。

### アメリカ合衆国選手団トレーニングキャンプ実施

2021年7月4日から8月16日までの期間、アメリカ合衆国選手団オリンピックチームの20競技延べ3,417人の選手、関係者が大蔵総合運動場を利用しました。

また、8月17日から28日までは、パラリンピックの陸上競技チーム延べ203人の選手、関係者が大蔵総合運動場陸上競技場を利用しました。

キャンプ期間中は、関係者以外の立入を禁止、シャトルバス等の専用車両での選手輸送、新型コロナウイルス感染症のスクリーニング検査や会場の消毒等、徹底した感染防止対策を行ったため、感染症の陽性者は発生しませんでした。

このキャンプを利用した選手の中から、多くのメダリストが誕生しました。

### 大会を終え、レガシーの創出に向けて

東京2020大会は、ボランティアや医療従事者のサポート、大会関係者の努力等により、無事に開催され、幕を閉じました。

東京2020大会前より進めてきた様々な取組みや、アメリカ合衆国との交流等は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2020年以降は計画変更を余儀なくされ、大会も無観客開催となり、世田谷区でのおもてなしや、多文化交流などは行うことができませんでした。しかし、実施・計画してきた馬術競技のPRやアメリカ合衆国との交流、パラスポーツの推進などの具体的な事業や交流は、大会後も様々な形で引き継ぎ、継続していきます。また、世田谷区はホストタウン・共生社会ホストタウンとして東京2020大会以降もスポーツに限らず様々な分野との交流を継続し、「共生のまち世田谷」の実現に向け取り組んでいきます。



Tokyo 2020/Uta MUKUO



# もくじ

## 気運醸成・レガシー実現に向けた取組み ..... 5

主要な気運醸成の取組み .....	6
アメリカ合衆国との交流、 ホストタウン・共生社会ホストタウン .....	20
エールを送ろう .....	28
おもてなし・交流・参加プロジェクト .....	30

## 幼稚園・学校の取組み ..... 37

教育委員会の取組み .....	38
区立幼稚園8園、小学校61校、中学校29校での取組み .....	40

## 新型コロナウイルス感染症の拡大 影響と対策 ..... 89

東京2020大会の1年間延期 .....	90
延期、中止となった主要な事業 .....	91
東京2020大会における感染拡大防止策 .....	92

## 東京2020大会 ..... 93

東京2020大会概要 .....	94
聖火リレー .....	100
馬術競技 .....	106
世田谷区ゆかりの選手の活躍 .....	119
ボッチャ日本代表チーム「火ノ玉 JAPAN」の活躍 .....	122

## アメリカ合衆国選手団トレーニングキャンプ ..... 123

トレーニングキャンプの概要 .....	124
キャンプ期間中の交流 .....	131

## 資料編 ..... 133

